Distance toward Nature

関口 善雅（指導教員 八尾 廣）

1 設計趣旨

1−1 はじめに

都市に立ち、部屋の中にいてあたりを見回すと、都市に立つと建築に囲まれていて、足下は舗装されたアスファルトの上で生活しています。部屋の中に入れば、様々な工業製品に囲まれ、フラットな床の上で生活しています。人は、人によって作られた様々な工業製品に囲まれて生活しています。しかし、それは人にとって、自然がなさすぎて不自然ではないかと疑問に思いました。

1−2 自然の体験

自然といっても、私自身、工業製品に囲まれて生活しているので、自然というのは、どういうものかを解ってはいないので、実際に山の中に入り、生活をしてみました。そこは、野生の鹿や熊や猿などが、出没する区域なので、朝から夕方まで散策しました。結論からいうと、人の住む環境を作るのは、少し難しいものだと思いました。だけど、自然というのは、木に囲まれ、様々に傾斜した土の上に立つ、そして、空気が葉や枝や落ち葉を動かす、そこには、同じものではなく、様々な要素がありました。それは、人為的に作られられたものではなく、自然の連鎖によって生まれた混沌が美しく、それが自然なのだと私は思いました。

1−3 まとめ

都市とは逆に、都市から離れて里山に住んでいる人達は、山を開拓して住む場所を作り、田んぼや畑を作り、自然の中で自然とお互いの領域をもって、生活しています。建築の周りの環境としては、自然に囲まれて生活していますが、建築の中に入れば、都市の部屋と同じで工業製品に囲まれフラットな床の上で生活しています。

これらのことは、人と自然との距離は正しいものなのか、人は自然に対して、どれだけ近づいていけるのか、それによって、私たちが取り巻く環境や人と自然の新しい関係を発見できるのではないかと思います。

この計画は、人と自然の間の距離をどこまで近づけるかという、実験的な住宅です。

2 敷地説明

厚木市上荻野の山。ここは、田畑があり。農家の人が、住んでいたり、趣味で、畑を作っていたり、猿や鹿なども出てくる里山で、杉やドングリの木、竹など様々な木が生えている。雑木林となっています。敷地は、緩やかな傾斜となっているが、敷地の奥は、崖となっていて、そこに、竹林が生えている。道路から、獣道を入り、歩いていくと、歩いている横が、敷地で、逆は、人には、なかなか歩けないきつい傾斜となっています。

3 コンセプト

3−1 全体のコンセプト

体験し見つけた、木と土と空気と人との間の距離をどこまで近づけるかです。

3−2全体の形と木との距離

木を切らないことが自然との距離とし、まず、木を避けるようにして、人の歩く道を決めます。そして、木と木の間の開いているスペースの大きさに合わせて、住宅の必要最低限の用途のボリューム置いていきます。そして、木を巻き込んで、所室を増やしていきます。

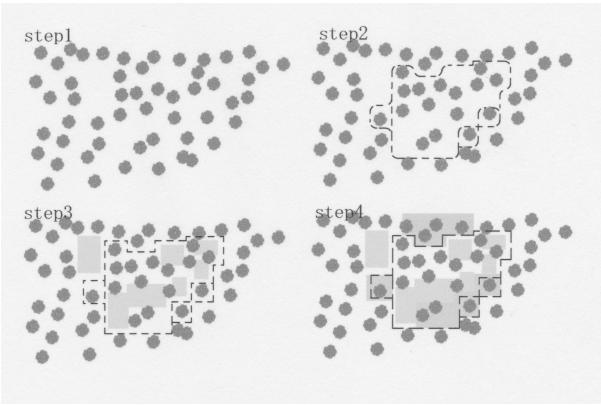

図１ 全体の形と木の距離

３−３　全体の床と土との距離

床は、地面の勾配をそのまま生かした、土間でできています。地面がひとつながりになって、建物内部と外部の境界を曖昧にさせる。曖昧にさせることと、フラットではない勾配のある床から感じる感覚は、自然を建築内部で感じる建築の内と外を持つ空間になっていきます。

３−４　建物の形と自然の関係。所室と土間

木と木の間に置いていった、所室は人の衛生面、人が自然に対しある程度プライベートなものを持たすために、フラットな床になっています。さらに、土間空間と所室の空間をわけるために、建物のボリュームが地形に対して浮かせます。

３−４　建物の形と自然の関係。所室と木

これは、木のレベルで、４ｍ〜１０ｍの間は、様々な高さの木の枝が無数の要素となってきます。GL〜４ｍは、足下からの地形、木の生えてくる場所、落ちてくる葉など、無数の要素に囲まれている。人為的ではなく、自然の連鎖によって、生まれたものが、混沌だと思います。各所室を置く位置は、木の足下４ｍの間に置きます。人の住むスペースを、確保できるレベルです。

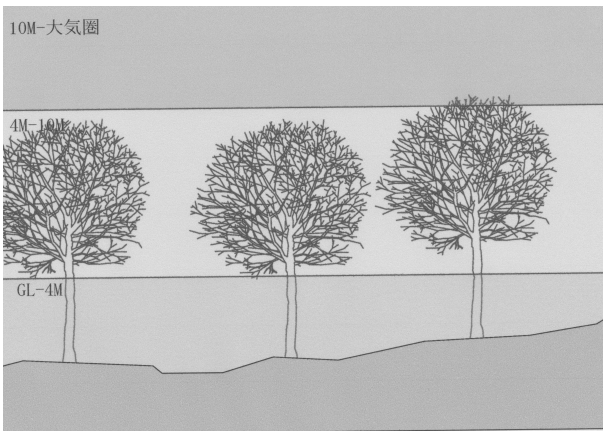

図２　木のレベルの対話

３−５　建物の形と自然の関係。土間の境界

床は、地面の勾配をそのまま生かした、土間でできています。土間空間は建物内部の土間が外部に広がったり、建物内部に土が入ってきたりしています。土の勾配と同じ勾配の屋根。中間にガラスが入り建築の外と内を曖昧にさせる。外側のガラスは、下に少し隙間があり、空気が通す。建築内部で、外で感じられる。建築の内と外を持つ空間になります。

３−６　建築の形と自然の関係。雨

雨の話。内側のガラスは、地面に設置しており、木の穴を塞ぐものは、伸縮のあるゴム、吸収性の高いスポンジ、虫除けのアサヒモ、となっていて、室内に雨は入ってこないようになっています。

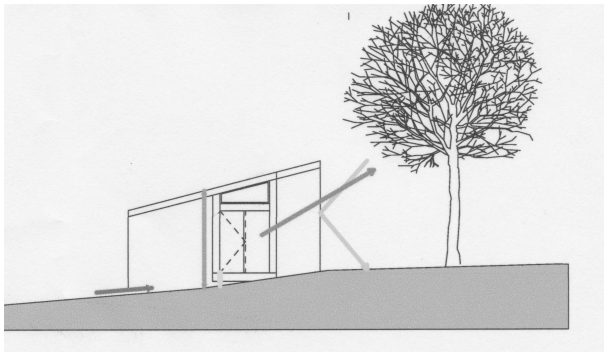

図３　建築の形と自然の関係

４　まとめ

こういった空間によって、屋内で完結する活動が多くなってきている、今、移り行く天候や季節、変化のある自然の中にいることによって、取り巻く環境や人と自然の新しい関係、あり方が変わっていく人の生活自体が変わっていく、人の活動自体が外に向くと思います。